WG 活動報告

18: ドナー別（血縁・非血縁）・移植細胞ソース別（骨髄・末梢血・さい帯血）による移植成績

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 宮村 耕一	名古屋第一赤十字病院	血液内科
田中 正嗣	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
加藤 俊一	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植科
寺倉 精太郎	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
小林 武	がん・感染症センター　都立駒込病院	血液内科
塚田 信弘	日本赤十字社医療センター	血液内科
鍬塚 八千代	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
永田 泰之	浜松医科大学	血液内科
諫田 淳也	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
神田 善伸	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
森島 泰雄	愛知県がんセンター研究所	疫学・予防部
渡邊 修大	社会保険中京病院	小児科
藤田 直人	広島赤十字・原爆病院	小児科
薬師神 公和	神戸大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
内田 直之	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
吾郷 浩厚	島根県立中央病院	血液腫瘍科
小川 淳	新潟県立がんセンター新潟病院	小児科
瀬尾 幸子	Fred Hutchinson CRC	Infectious Disease Division
熱田 由子	名古屋大学大学院医学系研究科	造血細胞移植情報管理・生物統計学
坂口 大俊	名古屋第一赤十字病院	小児医療センター　血液腫瘍科
谷口 修一	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
今井 陽俊	札幌北楡病院	内科
澤 正史	安城更生病院	血液・腫瘍内科
加藤 光次	九州大学病院	血液腫瘍内科
三田村 真	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社	
松野 良介	昭和大学藤が丘病院	小児科
森島 聡子	藤田保健衛生大学病院	血液内科・化学療法科
田渕 健	がん・感染症センター都立駒込病院	小児科
角南 一貴	独立行政法人国立病院機構　岡山医療センター	血液内科
西脇 聡史	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
松本 公一	国立成育医療研究センター	腫瘍科
三原 英嗣	愛知医科大学病院	血液内科
屋部 登志雄	日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター	検査部検査開発課

長藤　宏司	久留米大学病院	血液・腫瘍内科
木村　文彦	防衛医科大学校病院	血液内科
石山　謙	東京都立大塚病院（がん・感染症センター　都立駒込病院）	輸血科（血液内科）
今橋　伸彦	名古屋大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科学
南谷　泰仁	東京大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
後藤　守孝	東京医科大学病院	血液内科
小沼　貴晶	東京大学医科学研究所附属病院	造血細胞移植チーム
栗田　尚樹	筑波大学附属病院	血液内科
宮尾　康太郎	安城更生病院	血液・腫瘍内科

2. 承認研究の進捗状況（2013 年 1 月-12 月　※JSHCT2014 を含む）

18-1	**「非血縁骨髄移植と非血縁臍帯血移植の比較研究（若年成人）」 PI：寺倉精太郎**
学会発表・論文業績：	
18-2	**「年齢、体重、性別、疾患別にみたドナー別・ソース別の造血細胞移植実施状況と成績比較」 PI：加藤俊一**
学会発表：済（WG研究業績一覧参照） **論文業績：**	
18-4	**「非血縁者間移植の至適ドナーの検討を目的とした国際共同研究」 PI：鍬塚八千代**
学会発表： 1. 39th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, 7-10 April 2013, London, UK. 2. 第75回日本血液学会学術集会（平成25年10月11日～13日）札幌 **論文業績：**Kuwatsuka Y, Atsuta Y, Horowitz MM, Inagaki J, Kanda J, Kato K, Koh K, Zhang MJ, Eapen M; Donor/Source Working Group and GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation and the Center for International Blood and Marrow Transplant Research. Graft-versus-host disease and survival after cord blood transplantation for acute leukemia: a comparison of the Japanese versus Caucasian population. Biology of Blood and Marrow Transplantation, 2014, doi: 10.1016/j.bbmt.2014.01.020. [Epub ahead of print]	
18-6	**「急性白血病、慢性白血病急性転化および骨髄異形成症候群に対する同種造血幹細胞移植における移植ソースの影響および化学療法との比較」 PI：田中正嗣**
学会発表：第 75 回日本血液学会学術集会（平成 25 年 10 月 11 日～13 日）札幌 **論文業績**：投稿中	
18-7	**「小児領域におけるドナー別（血縁・非血縁）・移植細胞ソース別（骨髄・臍帯血）による移植成績」 PI：渡邉修大**
学会発表・論文業績：	
18-8	**「非血縁者間臍帯血移植と GVH 方向 1 抗原以内不適合血縁者間移植の移植成績の比較」 PI：諫田淳也**
学会発表：済（WG 研究業績一覧参照） **論文業績：**済（WG 研究業績一覧参照）	
18-9	**「ABO 血液型不適合が同種移植成績に与える影響ー移植細胞ソースによる違い」 PI：木村文彦**
学会発表：済（WG 研究業績一覧参照） **論文業績：**	

18-10	「重症再生不良性貧血に対する血縁者間造血細胞移植成績の国際比較」 PI:木村文彦
学会発表:18th Congress of European Hematology Association, 13-16 June 2013, Stockholm, Sweden 論文業績:	
18-11	「非血縁者間骨髄移植におけるドナー年齢と移植成績およびその結果に基づいた臍帯血移植との比較」 PI:瀬尾幸子
学会発表・論文業績:	
18-12	「HLA 一致血縁ドナーからの成人造血悪性腫瘍に対する骨髄破壊的前処置による同種造血幹細胞移植　移植ソース　骨髄と末梢血幹細胞の比較」 PI:長藤宏司
学会発表:済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
18-13	「HLA 適合血縁者間骨髄移植・末梢血幹細胞移植後の急性 GVHD　―　人種および移植源による比較」 PI:諫田淳也
学会発表・論文業績:	

3. 会議開催記録(2013 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
1 月 14 日	国立がん研究センター	研究進捗状況の報告
3 月 7 日	石川県立音楽堂	研究進捗状況の報告 今後の活動方針

4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2013 年 12 月末時点まで)

(277)回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

本ワーキングループはすべての疾患WG と縦糸で、すべての合併症WG と横糸で関係している。このためWG単独での研究を計画するのが困難であり、その研究申請は少ない。一方3つ以上の疾患をまとめて生存率をエンドポイントとした解析する場合は単独の研究として認められ、非血縁者間における臍帯血と骨髄の比較が高齢者、成人、小児で進められてきた(18-1, 18-6, 18-7)。また血縁における骨髄と末梢血幹細胞の比較も研究され本邦においては海外と異なり末梢血幹細胞ソースからの移植の成績は不良であるということを確認した(18-12)。

また18-2で開始された「年齢、体重、性別、疾患別にみたドナー別・ソース別の造血細胞移植実施状況と成績比較」は、本邦における適切なドナーソースの供給体制において必要な情報をもたらした。さらに「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律(移植推進法)」にあるドナーリクルートの方向性を出して行くための大変な重要な解析であり、本研究を細分化したもののうちドナー年齢による移植成績の解析が進み(18-11)、性別、体重別の解析の申請が待たれる。これと同様な研究である「ABO血液型不適合が同種移植成績に与える影響―移植細胞ソースによる違い」(18-9)もすでに解析結果が公開されている。

本ワーキングループで行うべき解析の一つが人種によるドナーソースによる移植成績の解析である。日本と欧米における小児白血病領域における臍帯血移植の成績 (18-2)、再生不良性貧血に対する骨髄移植の成績(18-10)、急性白血病における骨髄・末梢血幹細胞の移植成績の違い(18-13)などの解析は、本邦の特徴である遺伝学的同一性を背景とした本邦の良好な移植成績への新たな解釈を与える可能性がある。

「移植推進法」により国民に対してわかりやすい情報の発信が求められることになり、適切な移植ソースの選択についてより詳細な解析が必要となる。すでに「非血縁者間臍帯血移植とGVH方向1抗原以内不適合血縁者間移植の移植成績の比較」(18-6)の研究が論文化されたが、今後も「臍帯血」と「DR血清１座不適合非血縁骨髄」の比較など、患者のみならず医療者も知りたい情報を、ソース別WGと、HLAWGの両ワーキングループで解析を進めていくことが期待される。

以上のようにソース別WGでの研究テーマは多くあり、積極的に他のWG との調整を取り必要なデータを出して行きたい。